

日本への留学した理由

私	は	高	校	生	の	時	か	ら	日	本	に	留	学	し	よ	う	と	精	
神	的	に	考	え	は	じ	め	た	。	そ	の	理	由	は	2	つ	あ	る	。
1	つ	目	は	、	日	本	の	優	れ	た	建	築	技	術	を	学	び	、	
建	築	家	と	な	り	、	母	国	や	東	南	ア	ジ	ア	の	各	地	に	教
育	施	設	、	学	校	な	ど	の	イ	ン	フ	ラ	を	つ	く	り	あ	げ	た
い	と	考	え	た	か	ら	で	あ	る	。	学	校	を	造	る	こ	と	で	、
人	の	根	幹	と	な	る	教	育	を	支	え	る	こ	と	が	出	来	る	。
ま	た	、	人	々	の	生	活	に	欠	か	せ	な	い	、	教	育	施	設	
の	み	な	ら	ず	、	日	々	と	生	活	を	支	え	る	医	療	施	設	、
老	人	福	祉	施	設	、	住	居	施	設	な	ど	を	創	造	し	た	い	と
思	っ	て	い	る	。														
日	本	は	、	超	高	層	ビ	ル	建	築	技	術	や	耐	震	設	計	・	
建	設	に	高	く	、	日	本	独	自	の	伝	統	的	な	木	造	住	宅	に
魅	力	を	感	じ	た	た	め	、	日	本	の	建	築	技	術	を	学	び	た
く	、	来	日	し	た	。													
2	つ	目	の	き	っ	か	け	は	、	先	に	日	本	へ	留	学	し	た	
兄	弟	で	あ	る	。	「	日	本	は	教	育	熱	心	で	、	美	し	い	伝
統	・	文	化	を	大	切	に	し	て	い	る	。	そ	し	て	人	々	が	お
互	い	に	尊	重	し	合	っ	て	安	全	な	社	会	だ	」	と	い	う	兄
弟	の	留	学	経	験	説	を	聞	い	た	か	ら	で	あ	る	。			

日本への留学した理由

日本へ留学した先輩たちの姿を見て教育、
専門の知識などはもちろん豊かな者である。
更に他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心、正義感や公正さを重んじる心、勤労観・職業観などの豊かな人間性と社会性を持っているので、私も先輩たちと同じような素晴らしい人間になりたくて、日本で学びたいと強く思った。

現在、地球環境デザイン学の中でも建築構造について木質構造を研究している。ラオスは「住居は木造建築」という文化があり、その中でも特に木質構造が魅力的である。その良さを活かしつつ、自然災害などへの耐久性をプラスした木質構造を実現したい。また、ラオスは発展途上国であり、これから最優先課題は建物や住宅、橋や道路などの社会インフラである。建築分野で学んだ知識を活かし、国の発展に貢献したいと考えた。修士課程終了後は帰国し、国土交通省で公務員建築職に就き、教育施設や病院、図書館など人々の生

日本への留学した理由

活	に	欠	か	せ	な	い	、	し	か	も	公	民	の	基	礎	を	守	る	建	
築	に	携	わ	り	た	い	と	考	え	て	い	る	。							
	私	は	日	本	で	得	ら	れ	た	こ	と	、	特	に	「	自	然	災	害	
へ	の	耐	久	性	に	優	れ	た	建	築	・	設	計	技	術	」	と	「	木	
質	構	造	」	と	い	う	知	識	を	活	か	し	て	建	築	分	野	で	貢	
献	し	、	ラ	オ	ス	の	建	築	物	を	日	本	の	建	築	物	と	同	等	
レ	ベ	ル	に	引	き	上	げ	た	い	。	ま	た	、	人	々	が	森	林	資	
源	を	過	剰	利	用	せ	ず	に	木	質	の	適	切	な	利	用	と	木	質	
の	構	法	に	つ	い	て	後	輩	の	育	成	に	も	力	を	注	ぎ	た	い	。
	将	来	、	私	は	木	質	構	造	と	エ	コ	デ	ザ	イ	ン	を	活	用	
し	て	、	ラ	オ	ス	の	観	光	地	を	よ	り	世	界	へ	ア	ピ	ー	ル	
で	き	る	よ	う	な	建	築	物	を	作	り	た	い	。	そ	し	て	、	実	
務	の	経	験	を	積	み	、	大	学	で	教	員	と	し	て	ラ	オ	ス	で	
も	高	度	な	教	育	が	で	き	る	よ	う	、	邁	進	し	て	い	き	た	
い	と	考	え	る	。															